

1 題 材 「すな」

2 目 標

- 結びのあるひらがなの結びの形を理解し、「すな」の字形を整えて、丁寧に書くことができる。
- めあてをもとに自己評価や相互評価を行い、自分や友達の伸びを認め合うことができる。

3 指導計画(全2時間)

第1時 「すな」の文字の結びの形を理解し、めあてにそった練習をすることができる。(本時)

第2時 「すな」の字形にも着目し、自分に合っためあてを立てて、めあてにそった練習をし、清書を仕上げるることができる。

4 指導上の立場

- 本題材は、4年生では、初めてのひらがなの題材である。2文字とも「結び」があり、この筆使いは初めて学習する。ひらがなの題材であるので、簡単だと思う児童が多いと予想されるが、「結び」の筆使いは、送筆の方法や筆圧の加減などの面で既習の題材にはなく、技能的にも難しい。そこで、結びの形に焦点を絞ることで、どの児童にとっても自分自身の課題を見つけ、主体的に取り組みやすくしたい。また、ひらがなの点画の組み立て方や運筆について学ぶことで、ひらがな独特の美しさを再確認し、日常生活の中でも生かしていきたいと考えている。

- 本学級の児童は、書写において文字を上手に書きたいという意欲は高く、積極的に取り組むことができる。一方で、個々の技量の差が大きく、児童の中には、手本と比べ、自分の文字をどのように直すとよいか見つけることができにくい児童もいる。そのために1学期より、毎時間の書写の学習で、学習する視点を明確にさせることで自分のめあてを見つけさせ、練習に取り組ませてきている。そして、練習後の作品が、学習前に比べどれだけ上達したかを確認させるようにしている。自分の伸びに着目させることで、文字を書くことに苦手意識もっている児童も自分の上達を感じたり、自信につながったりしてきているように思える。

一方、書写の学習では丁寧に文字を書くことを意識できるが、日頃文字を書く時は、雑になりがちで、字形の乱れや筆順の誤りをよく見かける。そのために、書写で学んだことが、生かされるような教師の手立てが必要と考えられる。

- 本校の研究テーマ「主体的に学び、基礎・基本を身に付ける子どもの育成～自らめあてをもち、書く楽しさや上達の喜びを味わう書写学習～」に迫るために、次のような支援を行っていきたいと考える。

「自らめあてをもち」では、試し書きと手本を比較して、自分の字の課題を探らせる。第1時では、結びに着目させ、「す」は、縦に長い三角形になり、軽く三回止めることと「な」は、逆三角形になり、軽く二回止めることなど「結び」の形に気を付けて書くことができるようにする。また、第2時は、2文字の外形やバランスに気づくことができるようにする。そして、「外形」「文字のバランス」「結び」の3つのめあてを提示し、自分に合っためあてを選んで練習に取り組めるようにする。

「書く楽しさや上達の喜びを味わう」では、練習した字と試し書きを比較することで、自分の課題が達成できたかななどを振り返ることができるようにする。また、相互評価の中で、自分のめあてを伝え合い、見る視点を焦点化して互いの伸びに気づくことができるようにする。

以上のような支援を行うことで、児童一人一人が自分のめあてを持って、上達することを実感しながら楽しく書写学習に取り組めるようにしていきたい。

また、日頃の自分の書く文字にも着目させ、日常の硬筆での文字練習の中にも生きるようにしていきたい。

目 標	○「結び」のあるひらがなの筆使いを理解し、結びの形に気を付けていねいに書くことができる。 ○自分や友達の作品の伸びを見つけ、書く楽しさを味わうことができる。		
学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価 内 容	準 備 物
1 学習のめあてをもつ	○本時はひらがなで「すな」と書くことを伝える ○日頃自分が書いている児童の文字を見せ、「結び」の形について考えさせる。		児童の文字を拡大した物 姿勢や筆の持ち方の確認 赤ペン ビデオ
結びの形に気を付けて書こう。			
2 基準を知る。	○試し書きをし、手本と比較して気付いたことを話し合わせ、自分の課題に気付かせる。 ○「結び」の空間の形には、縦に長い三角形、横に長い三角形、ほぼ三角形という違いがあり、筆使いも違うことを理解させる。 す……縦に長い三角形になる。 筆は、軽く3回筆を止めて書く。 な……逆三角形になる。 筆は軽く2回止める。 ○ビデオで筆の運びを見せ、正しい筆使いを視覚的にとらえることができるようにする。 ○正しい筆使いを手を使って練習させる。		
3 練習する。	○1枚目は、結びの形が理解しやすいように、部分練習ができる用紙に取り組ませる。 ○籠文字、骨文字、「結び」の練習用紙を用意し「結び」の違いに気を付けて練習をさせる。 ①「結び」の部分 → 骨文字の練習用紙 が丸くなる 筆を止めて向きを変えるポイントを示したもの ②「結び」の部分 → かご字の練習用紙 が同じ太さになる 「結び」の部分の太さの違いが分かるように表したもの ○自分の上達に気付くことができるように、半紙にも書くように言葉かけをする。 ○机間指導をし、書く姿勢や正しい持ち方ができている児童や、筆使いに気を付けられている児童を称賛する。	自分のめあてに沿った練習をすることができている。 自分や友達の試書と練習後の字を比較して、めあてにそった評価ができる。	課題別練習用紙
4 まとめをする。	○学習のまとめとして本時の清書をする。 ○めあてに沿って清書と試し書きを比較し、自分の課題が解決できたところを見つけさせる。 ○お互いの上達ぶりや頑張りを認め合う場を設定し、課題解決に向けて頑張ったことが実感しやすいようにさせる。 ○次時は、「すな」の字形を整えて書くことを知らせる。		

自分や友達の試書と練習後の字を比較して、めあてにそった評価ができる。